

## 「現代社会」、「政治・経済」経済分野の編修に関する提案

経済教育ネットワーク

代表 篠原 総一

〒101-8360

東京都千代田区三崎町 1-3-2

日本大学経済学部 2号館

目標：「経済」で何を学ぶのか

学ぶこと＝「社会のこと」

社会の仕組みに関する基礎知識と、社会のあり方について考える力を身につける

(1) 見方・考え方を身につける

見方・考え方の基礎

効率と公正

幸福、正義、公正

(2) 身に付けた見方・考え方を使得、社会のあり方を考える

教科書に求められる条件

仕組みや概念の意味が分かるような記述になっているか

社会の仕組みとそのあり方について、理由が分かる（ないしは生徒に理由を考えさせる）記述になっているか

生徒が一人で読めば分かるものである必要はないが、

先生の解説と合わせて教科書を読んだ時、その意味が分かるようには書かれているべき

学習指導要領解説の要求は極めて高い

(1) カバーすべきだとする内容は余りにも広い範囲に及んでいる

とくに「政治・経済」の経済に関する項目は、大学経済学部におけるカリキュラム全体に匹敵する範囲をカバーしている

(2) 仕組みや概念、理論に関する知識だけでなく、その意味が分かるように説明することを求めている。

各項目の最後に、必ず「～～について理解させる、～～について考えさせる」という表現で締めている。

教科書の現状

余りにも多くのトピックスをカバーすることに追われ、分かるような記述が極端に不足している

その結果、「経済」は暗記科目になり下がっている  
暗記に頼る科目では、「社会のこと」を知り、そのあり方を考える科目になり  
えない

要望：「書かない勇気」をもって頂きたい

1. 意味が分かる説明文を記述するスペースを生み出すために、以下の内容を整理することが望ましい

(1) 新指導要領からはずされた内容

たとえば「政治・経済」では、「資本主義経済および社会主義経済の変容」など

(2) すでに学ぶべき意義を失っている項目（過去の積み残しの痕跡）

たとえば「合名会社、合資会社」、企業集団など

(3) 「社会のこと」を知る上で、本質的ではない知識（とくに、わき道にそれるデータ、制度、法律の名称など）

たとえば四大公害裁判の詳細なデータなど

2. 仕組みや政策について、例外なしに「意味」を説明することが望ましい。

(1) とくに市場メカニズム（アダム・スミスの神の見えざる手、効率的資源配分）

については、その名称は書いてあるが、その解釈と説明は誤っているか（単に「需要と供給を一致させるメカニズム」、あるいは不十分（「効率性」を定義せずに単に「効率的資源配分をもたらす」とだけ書いてある）であり、そのメカニズムを適切に説明した教科書は、現状では皆無。このメカニズムが分からない限り、市場の競争や政府の介入の意味も理解できない。

以下、ほんの一例をあげれば、

(2) 制度について

たとえば、直接金融と間接金融について、どの教科書にも定義は書いてあるが、それぞれがどのような働きをしているか、なぜ金融には2つの方法が共存するのか、といった意味は書かれていない。ところが、その意味が分かれば、たとえば金融危機との関連で、金融機関はどうあるべきか（金融の自由化や規制の意味）といったモノも見方ができるようになるはず。

(3) 政策について

たとえば税の直間比率について、国際比較データなどには触れているが、その比率が高いとどういう意味を持つのか、といった記述は皆無。意味を書かないのであれば、直間比率などの用語すらも、極めて限られたスペースしかない教科書では取り上げないことが望ましい。

また、有効需要管理政策とあるが、有効需要とはなにかについて説明した教科書も見当たらない。

(4) 国民所得計算表、国際収支表などについて

意味の解説をつけず、表だけ掲載しているため、生徒はひたすら記憶するだけになっている項目も多い。

国民所得計算表や国際収支表を教科書で取り上げる必要はあるのか？

もし掲載する場合には、それが何を理解する上で役に立つのかが分かるように説明することが望ましい。

(5) その他

3. 構成を見直すことが望ましい

何を教えるか、という観点から、各節で取り上げるトピックスの配列を見直すことが望ましい

たとえば

家計、企業、市場、政府といった節の順序は、これでよいのか

金融の節でとりあげる「貨幣の定義」、「金融」、「日本銀行」、「金融制度改革」という構成はこれでよいのか

国際経済で取り上げる「比較優位説」、「国際収支表」、「為替レート」、「国際機関と交渉の歴史など」という構成はこれでよいのか

4. とくに修正をお願いしたい点

(1) 要望の2 (1) で指摘したように「市場メカニズム」を正しく説明することが重要で、そうでなければ「市場の失敗」(市場が効率的資源配分の達成に失敗するという意味での「失敗」)も正しく説明することができない。現状では「市場メカニズム・市場競争」と「市場の失敗」に関する記述のバランスに偏りが見受けられる

(2) 制度や歴史について、正確な記述を目指すあまり、欄外で過度に細かな表をつける例が数多くみられる

たとえば、金融再編の経緯を示す例として、現在のメガバンクがどの金融機関どうしの合併を経てきたかが分かる見取り図を掲載しているケースがある。それを一端、教科書に載せると、大学入試問題の対象となる可能性があるため、本質からかけ離れた枝葉末節に属する知識は教科書では取り上げないことが望ましい。(実際、あるメガバンクの前身銀行名を答えさせるという入試問題が2件(2010年)出題されている)